

1989. 1. 26

# 九州大学 大型計算機センターニュース

No. 386

福岡市東区箱崎6丁目10番1号  
九州大学大型計算機センター  
広報教育室(TEL.092-641-1101)  
内線 2505

## 目 次

1. 昭和63年度利用申請の受付について.....	1
2. 平成元年度利用申請の受付について.....	1
3. 科学研究費及び受託研究費による計算機利用について.....	3
4. 大学間電子メール(N1メール)とBITNET, およびUTSとのメール中継 について.....	4
5. 研究者用実験ネットワークJUNETの運用について.....	7
6. BITLIST, BITSAVEコマンドの機能強化について.....	11
7. コード変換コマンド(CHGCODE)の公開について.....	12
8. UTS-MSP間のファイル転送について.....	13
9. 平成元年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について.....	14
10. 平成元年度プログラム相談員の募集について.....	16

### 1. 昭和63年度利用申請の受付について

本年度の利用申請(新規・追加)の受付は、2月28日(火)で締切ります。なお、科学研究費による利用申請の受付は、1月28日(土)で締切ります。

(共同利用掛 電 (内) 2505)

### 2. 平成元年度利用申請の受付について

・継続申請について

#### 1. 九州大学を所属センターとしている場合

昭和63年度当センターを所属センターとしている利用者には、「計算機利用申請書(継続用)」を1月下旬に送付しますので、引き続き利用される方は、その申請書中の説明を熟読の上2月1日(水)~3月11日(土)までに申請を行って下さい。

2. 九州大学を所属センターとし、他センターを第二センターとしている場合

上記申請を行い、その申請承認書を受理した後、別表の当該センターの受付期間中に、SINSEIコマンドで当該センターへ継続手続きを行って下さい。

3. 九州大学を第二センターとしている場合

昭和63年度当センターを第二センターとしている利用者には、確認のため「計機利用申請書(写)」を、1月下旬に送付しますので、引き続き利用される方は、所属センターへ所定の申請を行った後、所属センターの用意したコマンドで3月18日(土)までに九大センターへ継続手続きを行って下さい。

4. UTSシステムを継続利用する場合

上記1.又は3.の継続手続きの承認を受けた後、SINSEIコマンドで63年度最終運用日までにUTSシステムへ継続手続きを行って下さい。

・新規・追加申請について

平成元年度新規・追加利用申請の受付開始は2月1日(水)からです。

(別表)

センター名	申請種別	所属センターとしての受付期間	第二センターとしての受付期間
学情センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.18 ~63年度最終運用日 平成元年.2.13~平成元年.3.18 平成元年.3.20~ 平成元年.3.20~	~平成元年.2.18 ~63年度最終運用日 平成元年.2.13~平成元年.3.18 平成元年度運用開始日~ 平成元年度運用開始日~
北大センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.3.30 ~平成元年.3.30 平成元年.3.1~ 平成元年.3.1~ 平成元年.3.1~	~平成元年.3.30 平成元年.3.30 平成元年.3.1~平成元年.3.18 平成元年.4.1~ 平成元年.4.1~
東北大センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.10 ~平成元年.3.25 平成元年.2.1~平成元年.3.4 平成元年.3.1~ 平成元年.4.1~	~平成元年.2.10 平成元年.3.25 平成元年.2.1~平成元年.3.18 平成元年.4.1~ 平成元年.4.1~
東大センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.28 ~63年度最終運用日 平成元年.2.1~平成元年.2.28 平成元年.3.13~ 平成元年.3.13~	~平成元年.2.28 ~63年度最終運用日 平成元年.2.1~平成元年.3.18 平成元年.4サービス開始後 平成元年.4サービス開始後
名大センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.25 ~63年度最終運用日 平成元年.2.13~ 平成元年.3.13~ 平成元年.4.1~	~平成元年.2.9 ~63年度最終運用日 平成元年.2.13~平成元年.3.18 平成元年度運用開始日~ 平成元年度運用開始日~

京大 センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.15 ~63年度最終運用日 平成元年.2. 1~平成元年.3.10 平成元年.3.11~ 平成元年.4. 1~	~平成元年.2.15 ~63年度最終運用日 平成元年.2. 1~平成元年.3.18 平成元年度運用開始日~ 平成元年度運用開始日~
阪大 センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.3.10 ~63年度最終運用日 平成元年.3. 1~平成元年.3.25 平成元年.3. 1~ 平成元年.3. 1~	~平成元年.3.10 ~63年度最終運用日 平成元年.3. 1~平成元年.3.18 平成元年.4. 1~ 平成元年.4. 1~
九大 センタ	S 63年度新規・追加 変更・取消 平成元年度への継続 平成元年度新規・追加 変更・取消	~平成元年.2.28 ~63年度最終運用日 平成元年.2. 1~平成元年.3.11 平成元年.2. 1~ 平成元年.2. 1~	~63年度最終運用日 ~63年度最終運用日 平成元年.2. 1~平成元年.3.18 平成元年.4サービス開始後 平成元年.4サービス開始後

<注> 詳しくは各センターのセンターニュースを御覧下さい。

(共同利用掛 電 (内) 2505)

### 3. 科学研究費及び受託研究費による計算機利用について

#### 1. 利用期限

科学研究費による計算機の利用期限は、1月28日(土)または2月20日(月)までです。また、受託研究費によるものも2月20日(月)までです。

#### 2. ジョブの計算依頼と強制出力

例年1、2月中はジョブが多く当該月内に処理できないことがありますので、早目に計算を依頼してください。特に長時間ジョブについては注意してください。

利用期限が2月20日(月)となっている科学研究費及び受託研究費の登録番号のジョブについては、当日までに入力されたジョブはすべて強制出力をします。また、強制出力できなかったジョブについてはキャンセル処理しますのでご了承ください。

なお、利用期限が1月28日(土)となっているジョブについては、強制出力およびキャンセル処理は行わないので注意してください。特に科学研究費による利用で計算機利用負担金額を1月末で確定する必要がある方は、必ず1月末までに利用者各自で出力まで終了させるようにしてください。

#### 3. ジョブの負担金キャンセル

ジョブの負担金キャンセルは、1月期限のものは31日(火)、または、2月期限分のは22日(水)までに計算結果を添えてプログラム相談室、または2階受付に調査依頼を行ってください。

なお、連絡所からの利用者で、期日までに間に合わないと思われる方は、あらかじめ第一業務掛までご連絡ください。

#### 4. 利用負担金請求

科学研究費による1月分の利用負担金は2月初旬に、2月分は2月末までに請求処理を行い

ます。また、受託研究費による利用負担金は2月末に一括して請求処理を行います。

利用負担金は校費等での振替え払いはできませんので、利用にあたっては注意してください。

なお、システムで行っている予算管理では、予算が1円でも残っていればセッション、あるいはジョブを受け付けますので結果的に予算オーバとなることもあります。充分注意願います。

#### 5. データセットの取り扱い

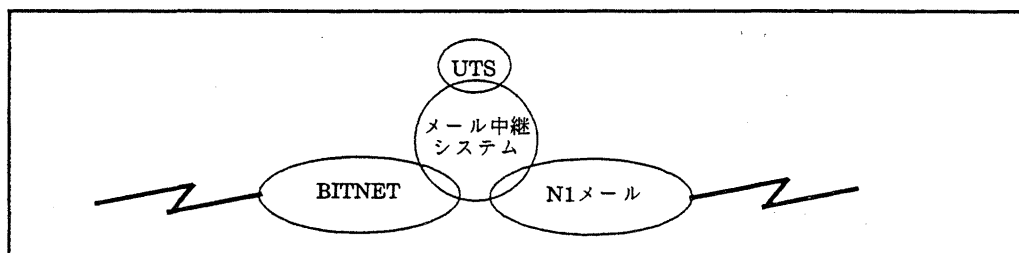
利用期限切れとなった登録番号のデータセットは、利用期限の翌月8日に消去しますので、必要なデータセットは各自で保存処置を行ってください。

(第一業務掛 電(内) 2517)

#### 4. 大学間電子メール(N1メール)とBITNET, およびUTSとのメール中継について

本センターでサービスしている2つのメールシステム(N1メール, BITNET)とUTSが双方向に接続されました。以下に本センターにおけるメールシステムの接続図を示し、送信方法を説明します。

九大センターにおけるメールシステムの接続図



##### 1. N1メールからBITNETおよびUTSへの送信方法

N1メールからBITNETおよびUTSへメールを送信する場合、メール送信コマンドに相手のメールアドレスを直接指定することはできません。相手のメールアドレスはメール本文の第1行目にTO: 相手のメールアドレスの形式で指定します。そして、メール送信コマンドに指定するメールアドレスは常に GATEWAY@KYUSHU を指定して下さい。KYUSHUのGATEWAYユーザに送りつけたメールは、メール中継システムがメール本文の第1行目のTO: 以下に指定された相手のメールアドレスを読み込み、代行してメールを送信します。また、ノード名がUTSおよびXXX.JUNET以外は全て利用者が指定したメールアドレスでBITNETへ送り出しますので、BITNETと接続している他のネットワークへメールを送ることもできます。

##### 使用例1)

東北大学大型計算機センターのユーザ(A29999)から京都大学大型計算機センターのユーザ(A59999)へメール(BITNETメール)を出す。

```
SYSTEM? NMAILS GATEWAY@KYUSHU
build/file?
input mail text
* TO: A59999@JPNKUDPC.BITNET
* 電子メールのテスト
*
```

```
Do you want to edit(Yes or No)? N
Messageid:XXXXX
```

sent to GATEWAY@KYUSHU soon  
SYSTEM ?

使用例2)

大阪大学大型計算機センターから九州大学大型計算機センターのUTSユーザ(A79999A)へメールを出す。

SYSTEM? NMAILS GATEWAY@KYUSHU

build/file?

input mail text

\* TO: A79999A@UTS

\* 電子メールのテスト

\*

Do you want to edit(Yes or No)? N

Messageid:XXXXX

sent to GATEWAY@KYUSHU soon

SYSTEM ?

使用例3)

名古屋大学大型計算機センターからスタンフォード大学のユーザにメールを出す(BITNET以外の例)。

READY

N1MAIL GATEWAY@KYUSHU

N1MAIL VERSION 3.7 (NUCC)

Enter mail text.

Please enter null line to terminate t> mode.

t> TO: J-UID@ノード名.STANFORD.EDU

t> TEST MAIL

t>

Subject: TEST MAIL

Posted to network post office.

Mail id number(NAGOYA XXXX).

READY

2. BITNETからN1メールおよびUTSへの送信方法

BITNETからN1メールおよびUTSへメールを送信する場合、1.と同様にメール送信コマンドに相手のメールアドレスを直接指定することはできません。相手のメールアドレスはメール本文の第1行目にTO: 相手のメールアドレスの形式で指定します。そして、メール送信コマンドに指定するメールアドレスは常にGATEWAY@JPNCCCKU.BITNETを指定して下さい。JPNCCCKUのGATEWAYユーザに送りつけたメールは、メール中継システムがメール本文の第1行目のTO: 以下に指定された相手のメールアドレスを読み込み、代行してメールを送信します。

使用例4)

使用例1の東北大学から来たメールを見る。

# BITRCV

<RECEIVED MAIL/FILE LIST>

JOBNO	TY	FILE NAME / MAIL SUBJECT	FROM	DATE	TIME	RECORDS
1738	JM	Forwarding mail from N1NET by J	GATEWAY@JPNCCCKU.B	01/11	09:00	13

# BITLIST 1738

KEQ52800I A59999.0BITN.B1010257.DATA

Received: from JPNCCCKU (SYSTEM) by JPNKISCT.BITNET (Mailer X1.25) with BSMTMP

id 1732; Wed, 11 Jan 89 09:05:12 JST

Received: by gateway@kyushu.ninet ; Wed, 11 Jan 89 09:00:39 JST

Date: Wed, 11 Jan 89 09:00:39 JST

From: GATEWAY@JPNCCCKU.BITNET

To: A59999@JPNKUDPC.BITNET

Subject: Forwarding mail from N1NET by JPNCCCKU.BITNET

R\_From: A29999@TOHOKU.N1NET

R\_Subject:

電子メールのテスト

KEQ52802I END OF DATA

#

このメールに対して返事を出す。

# BITSMAIL GATEWAY@JPNCCCKU.BITNET S(REPLY-MAIL)

INPUT

```
00010 TO: A29999@TOHOKU.N1NET
00020 AAA
00030
EDIT
SAVE * UNNUM
KEQ5246I SAVED IN DATA SET...
EDIT
END
```

### 3. UTSからN1メールおよびBITNETへの送信方法

UTSからN1メールおよびBITNETへメールを送信する場合は、メール送信コマンドに相手のメールアドレスを直接指定します。ただし、N1メールへの送信の場合はメールアドレスの最後に .N1NET、BITNETへの送信の場合はメールアドレスの最後に .BITNETを必ず指定して下さい。

#### 使用例5)

九州大学大型計算機センターのUTSから東北大学大型計算機センターへメール(N1メール)を出す。  
% mail a29999@tohoku.ninet

#### 使用例6)

九州大学大型計算機センターのUTSから京都大学大型計算機センターへメール(BITNETメール)を出す。  
% mail a59999@jpnkudpc.bitnet

#### 使用例7)

九州大学大型計算機センターのUTSからBITNETを経由して他のネットワークのユーザ(スタンフォード大学のユーザ)にメールを出す。他のネットワークアドレスの@を%に変え、@JPNCKKU.BITNETを付加してメールアドレスとする。

% mail 1-21ID%ノードネーム.STANFORD.EDU@JPNCKKU.BITNET

### 3. 注意事項

- 1) UTSはJUNETに接続されており、UTSのJUNETアドレスであるkyu-cc.cc.kyushu-u.junetを用いて、ユーザID@kyu-cc.cc.kyushu-u.junetを指定してBITNET、N1メールからUTSのユーザにメールを送ることもできます。
- 2) BITNETメールの漢字コードの変換は以下のように行います。  
BITNETから受けたメールは、メール中継システムが一旦IBM漢字コードからJEF漢字コードに変換します。  
UTS、N1メールからBITNETへ送るメールは、メール中継システムが、現在以下に示す富士通機ノードへはJEF漢字コード、それ以外はJEF漢字コードからIBM漢字コードに変換して送り出します。

JPNCKKU.BITNET	JPNKUHEL.BITNET
JPNISSP.BITNET	JPNMU11.BITNET
JPNKEIO.BITNET	JPNNUHEP.BITNET
JPNKEKTR.BITNET	JPNUTINS.BITNET
JPNKUDPC.BITNET	JPNOSKFM.BITNET

上記以外でJEF漢字のまま送り出して欲しいノードがあれば、A70012B@JPNCKKU.BITNETに連絡して下さい。

- 3) N1メールからBITNET、UTSへメールを送信する場合には、本文の1行の文字数を80文字以下にして下さい(日本語の場合は39文字以下)。
- 4) メール本文の第1行目に相手メールアドレスの指定がない場合は、そのメールは消去されます。

5) 受信確認通知のメールは中継されません。

(ネットワーク室 電(内) 2518)

## 5. 研究者用実験ネットワーク JUNET の運用について

1989年1月9日(月)から研究者用実験ネットワーク JUNET の運用を UTS 上で開始しました。

JUNET は、主に、計算機関係の研究・開発に携わっている人々を対象とし、UNIX (OS) を中心とした研究者用実験国内ネットワークといえます。1984年実験開始後、1989年1月までに184組織が参加しています。

東京大学大型計算機センター(以下、東大センターと略す)には、CSNET と JUNET とのメール交換のためのゲートウェイが設置され、CSNET を通じて海外のネットワークとのメール交換が可能です。現在、このゲートウェイを通した海外とのメールの交換に対しては課金がなされており、海外メールを利用するためには、東大センターへの手続きを必要とします[1]。

また、九大センターには、UTS と BITNET とのメール交換機能があり、これを利用して海外のネットワークとのメール交換が可能です。BITNET を利用する利点として、①国際メールに対して特別な課金がない、②BITNET は専用回線で連結されているのでメールのやりとりが比較的速いことが挙げられます。しかし、海外メールを九大センターの UTS へ送信する場合には、特別な注意を必要とします。詳しくは、文献[2]を参照下さい。

JUNET で運用されている機能は、利用者間のメッセージ交換を行なう「電子メール」と、利用者が随時参照できる掲示板の役割を果たす「電子ニュース」の2つです。

以下では、九大センターの UTS 上での JUNET の初歩的な利用法を簡単に紹介します。詳細な使用方法に関しては、文献[3, 4]を参照ください。

### (1) メールについて

メールを利用するコマンドとして、“mailx”と“mail”があります。それぞれの詳細な説明(英文)は、manコマンドで表示されます(“man mailx”, “man mail”)。以下では、アドレスの表記法と mailx (対話的電子メール処理システム)の簡単な利用法を説明します。

#### (a) アドレスの表記法[5]

JUNET のアドレスは、課題番号のようにシステム内で利用者を識別する名前である利用者名とシステム名の定義域を規定するドメイン名の間を“@”(アットマーク)で区切り、またドメインの階層を“.”(ピリオド)で区切ることにより表現します。アドレス表現の一般的な形式は、次のように表せます。

アドレス

=利用者名@ドメイン名

=利用者名@第nドメイン名.第n-1ドメイン名...第1ドメイン名

例えば、九大センターの UTS の課題番号“a79999a”の利用者のアドレスは、次のようになります。

a79999a@kyu-cc. cc. kyushu-u. JUNET

このアドレスは、第1ドメイン JUNET の下の第2ドメイン kyushu-u (九州大学) の下の第3ドメイン cc (Computer Center) の下の第4ドメインの kyu-cc (計算機システムの名称) の利

用者 a79999a を表しています。図 1 に、この階層構造の概念図を示しています。ただし、送り手のアドレスが J U N E T 内の場合は、第 1 ドメイン名 "JUNET" を省略でき、 "a79999a@kyu-cc. cc . kyushu-u" と表すことができ、さらに九大センター内ならば、全てのドメイン名を省略でき、利用者名 "a79999a" だけで表すことができます。ただし、九大センターでは、以下のように "JUNET" を省略しない形式がよいという方針をとっています。

hh@csce. kyushu-u. JUNET :九州大学の情報工学科の hh さん

hyyyy@mura03. waseda. JUNET :早稲田の hyyyy さん

#### (b) 海外メールアドレスの表記法

国内ネットワークである J U N E T で海外メールをやりとりする場合、他のネットワーク間をつなぐゲートウェイを利用します。このために、メールアドレスは、ゲートウェイを通ることを明示した形式となります。

東大センターには、日本の大学を対象とするゲートウェイがあります。九大センター利用者は、このゲートウェイを利用できます。ただし、このゲートウェイを利用するためには、予め C S N E T を利用する（メールを出すこと、受けること）ための登録を東大センターに行く必要があります。登録の手続きに関しては、文献 [1] を参照ください。この国際ネットワーク（K D D のパケット交換網）の使用に対する課金は、入出力 1 K B あたり 1 2 0 円です。

#### (b1) 海外メールを出す場合のアドレス表記法

東大センターを通して、メールを出すためのアドレスの一般的な形式を以下に示します。

uid%ドメイン名@u-tokyo. JUNET

東大センターを通して、メールを出すためのメールアドレスの例を以下に列挙します。

uid%foo. bar. edu@u-tokyo. JUNET :Internetの uid さん

uid%kaka. ca@u-tokyo. JUNET :カナダの uid さん

uid%baz. uk@u-tokyo. JUNET :英国の uid さん

uid%irisa. irisa. fr@u-tokyo. JUNET :フランスの uid さん

uid%aida. uu. se@u-tokyo. JUNET :スウェーデンの uid さん

#### (b2) 海外メールを受け取る場合のアドレス表記法

東大センターを通して、海外メールを受け取るためには、自分のアドレスが以下の形式であることを海外の発信者に知らせる必要があります。

利用者名%ドメイン名. JUNET@relay. cs. net

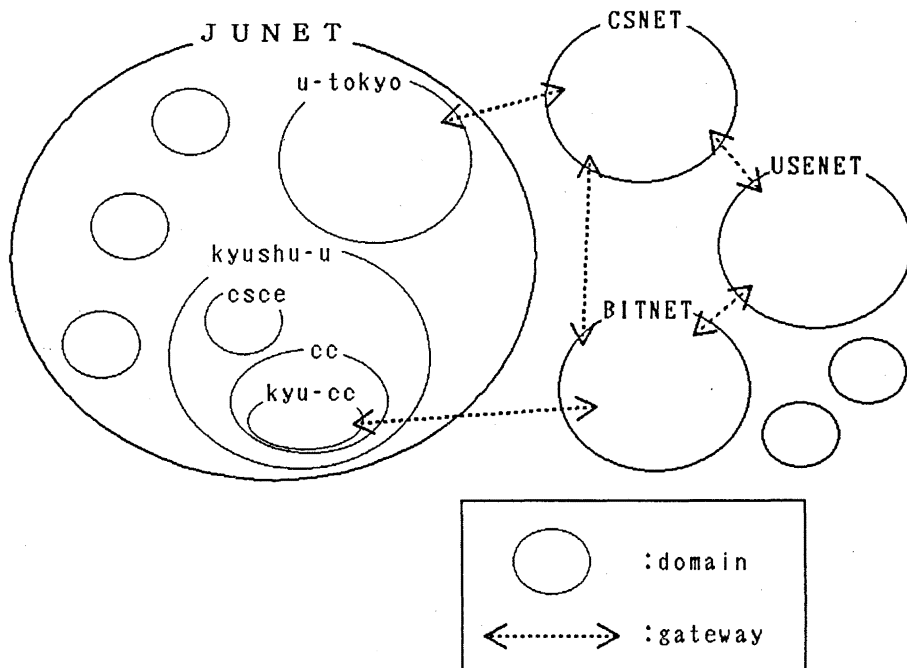
例えば、海外ネットワークから見た九大センターの利用者のアドレスは、次のようになります。

a79999a%kyu-cc. cc. kyushu-u. JUNET@relay. cs. net

#### (b3) 九大センターのメール交換機能

当センターには、U T S と B I T N E T と N - 1 メールとの間でメール交換する機能を公開しています。これを利用して、海外のネットワークとメールを交換することができます。国際メールに対する課金はなされていません。詳しい利用法は、文献 [2] を参照ください。





【図1. ドメインの階層とゲートウェイの概念図】

(c) メールを読む

メールが届いていると、ログイン時に "You have mail" というメッセージが出ます。

"mailx" と入力します (もしメールが1つも届いていないならば, "No mail for 利用者番号" というメッセージが返り, シェルに戻ります)。メールの一覧が表示されます。リターンキーを押すと, 古い順にメールの内容が表示されます。このシステムの簡単なコマンドの説明は, "?" と入力すると表示されます。このシステムを終りたい場合は, "q" を入力します。終了と同時に, 内容を見たメールは, 利用者にホームディレクトリのファイル "mbox" に自動的に保存されます。この mbox 中のメールを読みみたい場合は, "mailx -f" と入力します。

(d) メールを出す

"mailx アドレス" を入力します (アドレスは, 複数個並べることができます)。"Subject:" というメッセージが出ますので, このメールの内容を簡単に記述した文 (主題, Subject) を入力します。この Subject 行の次の行からは, メールの内容を入力します。メールの内容を入力し終えたら, 新しい行で, control-d あるいは "~." を入力して下さい。

(e) mailx のマニュアル

"man mailx" と入力すれば, mailx のマニュアル (英語) が表示されます。

(2) 電子ニュースについて

電子ニュースを読むためのコマンドとして "vnews" と "readnews" があり, また投稿するコマンドとして "postnews" があります。それぞれの詳しい利用法は, man コマンドを使って見るこ

とができます。以下では、電子ニュースを読むためのシステムとして、“vnews”を簡単に説明する。

(a)初めて、電子ニュースを読む

電子ニュースを読む場合、一般に、まずファイル“.newsrc”を作成します。“vnews”と入力し、システムに入り（ここで、リターンを入力すると、最初のニュースが表示されます）、続いて“q”と入力し、このシステムを抜けることにより、このファイル“.newsrc”が生成されます。この“.newsrc”には、九大センターのUTSから読むことができるニュースグループの一覧と各人がどこまで読んだかを示すデータが管理されています。ニュースは、一般にこのニュースグループを基本単位として読みます。どのようなニュースグループがあるかは、“.newsrc”の内容を見て下さい。

(b)vnewsの使用（“.newsrc”が既にある場合）

“vnews ニュースグループ名”を入力する。指定したニュースグループで読んでないニュースを古い順に表示します。“?”で簡単なコマンドの説明が表示されます。“q”でシステムを終了します。

(ニュースグループの例)

kyushu-u. general : 九州大学(kyushu-u)を中心とする一般的な話題  
fj. general : 日本全国規模(fj: From Japan)の一般的な話題  
fj. junet : 日本全国規模(fj)のJUNETに関する話題  
fj. question. junet : 日本全国規模(fj)のJUNETに関する質問とその解答(初心者向け)  
comp. ai : U S E N E T の A I に関する話題

(c)vnewsのマニュアル

“man vnews”と入力すれば、VNEWSのマニュアル(英語)が表示されます。

(d)checknews(新しいニュースが来ているかどうかを調べるコマンド)

“checknews -N ニュースグループ名”と入力すると、指定したニュースグループでまだ読んでいないニュースがあるかどうかを調べます。もし、ある場合は“**There is news in ニュースグループ名**”というメッセージが表示され、ない場合は何も表示されません。

(3) 注意事項

- (a)相手のアドレスを間違えないようにして下さい。他ノード(中継局)に迷惑がかかります。
- (b)大きなサイズのメールは、送らないでください(大きくても50 kbyte程度)。

参考文献

1. 「国際電子メール(CSNET経由)の暫定サービス開始について」, 東京大学大型計算機センターニュース, Vol.19, No.7-8, pp49-55, 1987年.
2. 「大学間電子メール(N-1メール)とBITNET, およびUTSとのメール中継について」, 九州大学大型計算機センターニュース, No.386, 1989年1月.
3. 「JUNET利用の手引(第1版)」, JUNET利用の手引作成委員会, 1988年2月.
4. 宮脇伊佐夫 「JUNETの利用法」, 九州大学情報処理教育センター広報, Vol.11, No.2, pp3-16, 1988年.
5. 村井 純 「JUNETの紹介とアドレスの表記法」, 東京大学大型計算機センターニュース,

Vol.19, No.11, pp19-21, 1987年.

6. 平原正樹 ほか 「九州・山口における研究者用実験ネットワークJUNETの現状」, 昭和63年度電気関係学会九州支部連合発表大会論文集, 1021, 1988年10月.
7. 松浦敏雄 「広域ネットワーク・JUNETについて」, 大阪大学大型計算機センターニュース, Vol.17, No.1, pp35-45, 1987年.

(ネットワーク室 電(内)2508)

## 6. BITLIST, BITSAVEコマンドの機能強化について

BITNETメールシステムにおいて, 以下のコマンドに機能強化を行いました.

### イ) BITLISTコマンド

受信済みメール・ファイルの内容を表示するコマンドに, IBMの漢字コードを自動的にJEF漢字コードに変換して表示するオペランドを追加した.

#### 1) 入力形式

コマンド	オペランド
BITLIST	ジョブ識別番号 [IBM]

#### 2) オペランドの説明

ジョブ識別番号

ジョブ識別番号を4桁以内の整数で指定する.

IBM

IBMの漢字コードを含むメール・ファイルの内容をJEF漢字コードに変換する.

### ロ) BITSAVEコマンド

受信済みメール・ファイルをデータセットに格納するコマンドに, IBMの漢字コードを自動的にJEF漢字コードに変換して格納するオペランドを追加した.

#### 1) 入力形式

コマンド	オペランド
BITSAVE	ジョブ識別番号   ALL [DSN (データセット名)] [MEM (メンバ名)] [IBM]

#### 2) オペランドの説明

ジョブ識別番号

ジョブ識別番号を4桁以内の整数で指定する. ALLを指定すると, 受信済みのす

すべてのメール・ファイルを格納する。

DSN (データセット名)

格納するデータセット名を指定する。

MEM (メンバ名)

格納するメンバ名を指定する。

IBM

IBMの漢字コードを含むメール・ファイルの内容をJEF漢字コードに変換して格納する。

(ネットワーク室 電(内) 2518)

## 7. コード変換コマンド (CHGCODE) の公開について

データセットの内部コードを他のコードへ変換するコマンド (CHGCODE) を作成しました。使用方法は、以下の通りです。

### 1) コマンドの入力形式

コマンド	オペランド
CHGCODE	入力データセット名 出力データセット名 { LTOU   UTOL } { FTOI   ITOF } { FTOE   ETOF } { FTOS   STOF } { FTOJ   JTOF }

### 2) オペランドの説明

入力データセット名

変換を行うデータセット名を指定する。

出力データセット名

変換後に出力するデータセット名を指定する。

LTOU | UTOL

英小文字から英大文字 [LTOU] , 英大文字から英小文字 [UTOL] への変換を行う。

FTOI | ITOF

JEFコード (MSPの漢字コード) からIBM漢字コード [FTOI] , または, IBM漢字コードからJEFコード [ITOF] への変換を行う。

FTOE | ETOF

JEFコード, EBCDIC (MSPの内部コード) からEUC (UTSの内部コード) [FTOE] , または, EUCからJEFコード, EBCDIC [ETOF] への変換を行う。

FTOS | STOF

JEFコード, EBCDICからシフトJISコード, ASCIIへ [FTOS] , または, シフトJISコード, ASCIIからJEFコード, EBCDIC [STOF] への

変換を行う。

FTOJ | JTOF

JEFコード、EBCDICからJISコード(エスケープシーケンスは83年版を使用)  
[FTOJ]、または、JISコードからJEFコード、EBCDIC[JTOF]への  
変換を行う。

### 3) 使用例

JEFコードで入力されているデータセットJEF. DATAをIBM漢字コードへ変換して  
IBM. DATAへ出力する。その後、IBMマシンのノードへ日本語メールとして送信する。

```
CHGCODE JEF. DATA IBM. DATA FTOI  
BITSMAIL 受信者のアドレス DSN(IBM. DATA)
```

(第一業務掛 電(内) 2517)

## 8. UTS-MSP間のファイル転送について

1月9日(月)から、UTS-MSP間のファイル転送プログラムに、行末(復改のコード)  
処理を行わないパラメタ(BINARY)を追加します。これによって、ファイルのバイナリ  
転送ができるようになりました。ただし、UTSからMSPへの転送においては、MSP側の  
データセットのレコード長で改行されます。

なお、上記のパラメタは、~/utosendf(UTS→MSP時使用)、および、~/utorcvf(M  
SP→UTS時使用)ファイルのEXEC文のPARMオペランドに以下のように指定します。

BINARYの指定例

#### ① UTS→MSPの場合

```
// EXEC PGM=UTORCV,PARM=BINARY
```

#### ② MSP→UTSの場合

```
// EXEC PGM=UTOSEND,PARM=BINARY
```

その後、utocpコマンドによってファイル転送を行ないます。

ここで、ファイル転送時のパラメタをまとめると、次のようになります。

UTS→MSPの場合

パラメタ	コード変換	行末処理
EBCDIC (省略値)	EUC → EBCDIC(JEF)	有
NOCONV	なし	有
BINARY	なし	なし

MSP→UTSの場合

パラメタ	コード変換	行末処理
ASCII (省略値)	ASCIIベースEBCDIC(JEF) → EUC	有
KANA	カナベースEBCDIC(JEF) → EUC	有
NOCONV	なし	有
BINARY	なし	なし

(第一業務掛 電(内)2517)

9. 平成元年度(前期)ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領(後述)に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成元年2月25日(土)
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室(内線 2508)まで提出する。  
(申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してあります。)
4. 対象課題
  - a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
  - b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開するものとしますが、これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
  - ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
  - iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。
2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

### 3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

### 4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

### 5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

### 6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

（ライブラリ室 電（内）2508）

## 10. 平成元年度プログラム相談員の募集について

当センターでは、現在、月曜日から金曜日の13時30分から17時30分まで、プログラム相談を行っています。質問者への助言、技術指導等のため下記によりプログラム相談員を募集しますので、お申し込みください。なお、詳細は共同利用掛にお尋ねください。

記

1. 応募資格 センター利用有資格者
2. 担当時間 週1回(2時間)  
但し、夏期休暇中(7.11~9.10)は、期間内に2回程度。
3. 任 期 平成元年4月~平成2年3月
4. 特 典 指導用計算時間(年間120分)  
マニュアル一定限度まで無償配布
5. 申込期限 2月28日(火)
6. 申込み先 九州大学大型計算機センター

共同利用掛 電(内)2505